

第12回 外国ルーツの子どもたち支援研修会 in 人吉・球磨

テーマ 「その子の日本語だいじょうぶですか？」

～ダブルリミテッドを生まないために～

親が外国人、または国際結婚の連れ子、海外生活が長かった日本人の子どもなど、外国ルーツの子どもが増え、熊本県内でも、17の自治体が小中学校に日本語指導を取り入れています。しかし、日本生まれ、あるいは幼少期に来日した子どもの中には、日本語も母語も十分に発達していない子ども(ダブルリミテッド)がいることが、最近分かってきました。彼らは、日常会話は流暢に話しますが、学習について行けず、進学や就職が難しい子どももいます。そんな子どもたちの実態を知り、支援の方法について考えます。



期 日	2018年 9月 2日 (日)
時 間	13:30 ~ 16:30 (受付 13:00~)
場 所	中小企業大学校(人吉校) 中教室 〒868-0021 熊本県人吉市鬼木町梢山 1769-1 Tel : 0966-23-6800
参加資料代	500円 *どなたでもご参加いただけます*

- 1 開会 (13:30)
- 2 パネルディスカッション [質疑応答、休憩を含みます]
 - ・大塚 正信 (合志市立西合志南中学校)
「外国ルーツの子どもたちとの関わりから見えてきた課題」
 - ・畠山 真一 (尚絅大学文化言語学部准教授)
「ダブルリミテッドと学習言語」
 - ・岩谷 美代子 (NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと副代表)
「外国ルーツの子どもたちの現状と日本語指導の重要性」
*人吉市の日本語指導開始のご報告
 - ・竹村 朋子 (NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと代表)
ワークショップ「日本語ってどうやって教えるの？」

主 催 : 熊本・外国ルーツの子どもたち支援連絡協議会

後 援 (予定): 人吉市教育委員会、球磨郡町村教育委員会連絡協議会、熊本県、熊本県教育委員会、八代地区人権同和教育研究協議会、熊本県就学前人権・同和教育研究会、熊本県国際協会、一般財団法人熊本市国際交流振興事業団、熊本県人権教育研究協議会、NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと、秀岳館高校・中九州短期大学、部落解放同盟熊本県連合会、熊本県教職員組合、熊本県高等学校教職員組合

お問い合わせ・申込み 〒860-0806 熊本市中央区花畑町4番18号 熊本市国際交流会館内
一般財団法人熊本市国際交流振興事業団 TEL 096-359-2121
FAX 096-359-5783 / e-mail katsuya@kumamoto-if.or.jp
※人数把握のため、できるだけメールかFAXにて申し込みをしてください。

氏 名 _____ 電話番号 _____

所 属 _____ (幼稚園名・保育園名・学校名・その他)

今回の研修会では、パネラーの方に次のような内容でお話させていただきます。

私は、今回の研修会で「外国ルーツの子どもたちとの関わりから見えてきた課題」というタイトルでお話をさせていただきます。

私は以前、菊陽町の武蔵ヶ丘中学校に勤務したときに、5年間外国人子女等日本語指導対応加配という立場で、外国ルーツの子どもたちと関わりを持つ機会がありました。そして、学校の中や地域での外国ルーツの子どもたちの学習会を通して、多くの外国ルーツの子どもたちと出会い、彼らのまえにある様々な課題に彼らと一緒に向き合ってきました。今回は、彼らが置かれている状況や、学校の先生方に是非知っておいていただきたいことを中心に、お伝えできればと思っています。

みなさまの参加をお待ちしております。

大塚正信（西合志南中学校）

近年その重要性を増している外国にルーツのある子どもの言語発達を概観し、(均衡)バイリンガル(継承語(養育者の言語)と現地語(彼らが属する世界の言語)の両方が使用可能な話者)とダブル・リミテッド(継承語と現地語の両方に困難を抱える話者)が、どのような話者であるかを説明します。また、学校空間での学びに必要な「学習言語」が「生活言語」とどのように異なっているかを説明します。さらに、小学校3から4年生の教科書の中に、生活言語とはかけ離れた学習言語の基礎となる言語が導入されていることを説明します。

畠山真一（尚絅大学文化言語学部准教授）



外国ルーツの子どもたちにとって一番大きな壁は「言葉の壁」です。当 NPO 法人では2009年より、熊本県内の15自治体の教育委員会の要請を受けて小中学校に日本語指導員を派遣しています。

日本語指導の有無が子どもの将来に大きな影響を及ぼした例をあげ、日本語指導の必要性を訴えます。さらにダブルリミテッドの子どもの特徴、学校現場での子どもたちへの対応の仕方、現在私たちが行っている支援方法を紹介します。また、30年度より開始された人吉市の小中学校での日本語指導についてもご報告します。

岩谷美代子(NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと)

まったく日本語が話せない子どもが編入してきたとき、日本語をどうやって教えたらいいでしょうか。小学1年生の国語の教科書を使って教えるのはどうでしょうか。外国から来た子どもにとって日本語は外国語です。国語(自分の国の言葉)ではありません。私たち日本人は何も考えずに話していますが、日本語の動詞の活用や助詞はとても難しく、学習するのは大変です。子ども用の日本語のテキストを使って、一緒に教え方を考えてみましょう。

竹村朋子(NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと)